



おくすり通信

No. 34 Ca拮抗薬

こんにちは、薬剤科です。前回、血圧を下げるには①血管の収縮を抑える ②血圧を上げるホルモンを減少させる ③体液量を減少させる ④心臓の心拍数を抑えると4つの方法があることを説明しました。

今回は血管の収縮に関わる治療薬である「Ca拮抗薬」についてご紹介していきます。

《血管と血圧の関係性について》

血管が収縮すると血圧はなぜ上がるのでしょうか。そもそも「血圧」とは、血管内の血液が血管の壁を押す力のことです。心臓が縮んで全身に血液を送り出した時の血圧が「収縮期血圧」と呼ばれ、心臓が拡張して戻ってきた血液を取り込んだときの血圧が「拡張期血圧」と呼ばれます。

血管は本来柔らかく、伸縮自在な構造をしています。しかし動脈硬化などが進むと血管の壁が硬くなります。その結果、血液を送り出すときに必要な圧力が大きくなり、血管の壁への圧力が増すので血圧が高くなります。また、寒さで血管が収縮したり、体内の血液量が増加することでも血圧は高くなります。

《血管の収縮を抑える「Ca拮抗薬」》

血管は筋肉で囲まれており、筋肉の収縮にはCaが必要になります。Caが血管内に作用することで血管の筋肉が収縮して、血圧が上昇します。Ca拮抗薬はCaの作用を抑制して、血圧を下げます。強力な降圧作用があり、多くの患者さんに使用されている薬です。また「グレープフルーツジュース」はCa拮抗薬の血圧を下げる効果を強めてしまうため、摂取を控える必要があります。



《Ca拮抗薬の種類》

一般名	商品名	特徴
アムロジピン	ノルバスク、アムロジン	最も長時間作用する。使用頻度が多い薬。
エホニジピン	ランデル	心保護作用と腎臓を保護する作用がある。
シルニジピン	アテレック	頻脈を抑制し、腎臓を保護する作用もある。
ニソルジピン	バイミカード	降圧作用が強く、持続時間も長い。
ニフェジピン	アダラートCR錠(1日1回) アダラートL錠(1日2回) セバミットR細粒(1日2回)	L錠、細粒は降圧・狭心症への効果が高いが、短時間しか効かない。CR錠は効果が持続するように改良された薬のため、1日1回で済む。
ベニジピン	コニール	降圧作用は穏やか。腎臓を保護する作用もある。
アゼルニジピン	カルブロック	持続時間が長く、慢性腎臓病の人にも使いやすい。
シルチアゼム	ヘルベッサー、ヘルベッサー-R	降圧作用は弱いですが、頻脈改善の効果が高い。心房細動による頻脈を抑制する目的で使用される。

そのほか気になる点がございましたら、お気軽にご相談ください。